

て張て一會仕候を利休面白く存、其後形恰好ヲ好ミ、櫛形ト名を付、數奇屋の勝手口に仕候由仰
三〇細川也、

〔茶道要録^上主法〕座席之段々同床之事

一 通口之事、鴨居下三尺六寸、横二尺五分也、勝手口ト同寸也、必ズ瓦燈口ニスル也、

〔茶傳集^{十五}〕圍座鋪之事

一 通口中一尺九寸、又二尺五分にも、高サ鴨居の内法三尺八寸八分、内八分は額ノ土付申分、櫛形
カ肩をいからかし、左右は鴨居の下はカ七寸下り也、

一 勝手口に傍立口と云は、鴨居の見付九分、傍立も九分にして、鴨居は傍立にいたゞかせ、鴨居の
鼻の出端は九分、高サ巾櫛形の寸法也、

釣棚

〔茶道筌蹄一〕釣棚之部

一 重 利休形也、桐にて竹の釣木、向切に中柱あるは客付、中柱なきは勝手、但し杉もあり、中柱あ
る席には杉は不用、利休形の臺目にて中柱なきは、勝手の方へ杉の一重棚を釣る、尤少し寸廣し、
二重 利休形、むかしは吹貫より上にてとまる、不審庵三疊臺目吹貫より下にて釣る、天井より
は釣竹也、棚より棚はかしの釣木也、

釘箱棚 仙叟好杉にて左勝手に好、當時は右勝手にも用ゆ、裏流則五疊敷にあり、今は表にも障
啄齋よりはじめて用ゆ、

利休堂 仙叟好杉、當時蛤棚といふ、釣木竹也、^略 圖

炮烙棚 元伯好杉、又隱の勝手に用ゆ、是濫觴也、

料紙棚 了々齋好杉、床脇に用ゆ、釣木竹也、

〔南方錄^二〕釣棚附小棚中棚通り棚集雲庵棚